

府中町ふるさと歴史散策

〔第28回〕

文化財としての地名⑨ 昭和初期の町内会名(4) 浜田

昭和初期の頃の字名(15の町内会名)辻・中郷(砂原・石井城・江本寺・御衣尾・五反田・山田・大崎・市・沖・尾首・八幡・浜田・茂陰・鹿籠)は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。

今回は、南部の地域の1つである「浜田」について考えていくこととする。

(2)字 浜田(別名:三軒家)

もともと、この地は海岸であったといわれるが、干拓して田畑としていたので、浜の田という意味で浜田と言われるのではないだろうか。この付近の大部分では、(筆者注:この当時は)井戸を掘ると塩水がでたため、住民は山間部の方へ水を汲みに行っている状況である。これらを見てもこの地域が、以前は海であったことが想像される。「渡し

地蔵」、「大樋門」の地名が残っていることからそうであろう。

別名でこの地域を「三軒家」と呼ぶのは元禄年間(1688~1704)以前に3戸ほどあったためといわれている。当時の屋号という「濱田屋」こと岡村家はその一戸であると言われている。(菅原守編『芸州府中荘誌』から 筆者が口語訳したもの)

字 浜田は現在の地名表示では浜田本町、浜田一丁目から四丁目と大通一丁目・二丁目の東半分の辺りをさしている。浜田という地名は近世の初期から見られるが、小字名は近世後期に見られ、大縄、上縄などがある。新田開発(干拓)との関連がある地名である。この「大縄」という地名は、「大縄交差点」という交差点名で残り、「上縄」という地名は、

名は、「上縄児童遊園」という公園名で残っている。

また、現在の浜田本町には恵比須神社がある。これにつ

いて『芸州府中荘誌』には次のとおりの記述がある。(内容は筆者が口語訳している。)

字 浜田にある胡子神社について明治43年3月に多家神社に合祀されている。縁起などそれらの記録がなく詳細は不明であるが、今なお一間から一間半程度の御堂がある。合祀した後にはしばらくは祭典などをしていたが、その後この地区で不幸が続いたことから

里人は昔のとおり祭典をするようになったといわれている。現在では「恵比須神社」に文字は変わっているが、昔からこの地域にあったことが史料からうかがわれる。

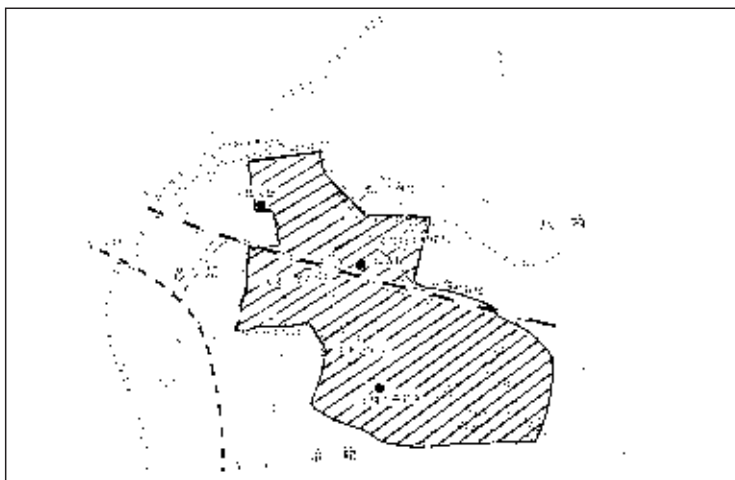
府中町文化財保護審議会委員

熊野俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272



「字 浜田」(斜線の部分)とその周辺図



大縄交差点 鶴江鹿籠線を南方向にのぞむ



恵比須神社